

世界無形遺産
【能楽】

2016 summer
Evening Noh-theater

2016/7/2(土) ~ 2016/8/27(土)

18:30開演(17:30開場) 各回解説付き



観能の夕べ

7月2日(土) 解説/西村 聡

狂言 柑子 能 加茂
●能村 祐丞 ●広島 克栄

7月9日(土) 解説/佐々木香織

狂言 貫 聳 能 船弁慶
●炭 光太郎 ●島村 明宏

7月16日(土) 解説/児玉 信

狂言 柿山伏 能 井 筒
●能村 祐丞 ●松田 若子

7月23日(土) 解説/山内麻衣子

狂言 仏 師 能 龍 田
●炭 哲男 ●渡邊 茂人

7月30日(土) 解説/佐々木香織

狂言 伊文字 能 忠 度
●炭 光太郎 ●佐野 弘宜

8月6日(土) 解説/西村 聡

狂言 蟹山伏 能 三 笑
●鍋島 憲 ●高橋 右任

撮影: 名鏡 勝朗

8月20日(土) 解説/佐々木香織

狂言 膏薬煉 能 巴
●炭 光太郎 ●福岡 聡子

特別公演

8月13日(土) 解説/飯塚 恵理人

狂言 柏 崎 能 佐渡狐 小鍛冶白頭
●大坪喜美雄 ●炭 哲男 ●宝生 和英

8月27日(土) 解説/西村 聡

狂言 蝸 牛 能 三 山
●炭 哲男 ●藪 克徳

【会場・お問い合わせ】 石川県立能楽堂

TEL.076-264-2598 〒920-0935 金沢市石引 4-18-3 FAX.076-264-2598

各公演 1,000円 特別公演 3,000円 ※いずれも高校生以下無料

※満席の場合、ご入場いただけない場合がございます。

【主催】いしかわの能楽鑑賞事業実行委員会

【チケットのお求め】 石川県立能楽堂
石川県立音楽堂チケットボックス(076-232-8632)
香林坊大和プレイガイド (076-220-1332)

「いしかわ子ども文化体験チャレンジスクール〜進め! 出世街道〜」対象事業
石川県民大学校連携講座



平成28年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産を活かした地域活性化事業)

金沢能楽美術館 期間中の催し

★観能の夕べ プレ講座 5回 14:00~15:00 参加無料(要観覧料、要申込)

- ①7月 2日(土) 講師:高橋 憲正
- ②7月16日(土) 講師:福岡 聡子
- ③7月30日(土) 講師:松田 若子
- ④8月 6日(土) 講師:藪 克徳
- ⑤8月20日(土) 講師:渡邊 茂人

★特別展 <10周年記念II「狂言展」> 開催期間:7月2日~9月25日

前田家ゆかりの貴重な狂言面をはじめ、色彩と機知に富む狂言装束や、
絵画、書などを紹介します。

お問合せ 金沢能楽美術館 TEL.076-220-2790

〒920-0962 金沢市広坂1丁目2-25 10:00~18:00(入館 17:30まで) 月曜休館(祝日の場合翌日休館)

※駐車場は台数に限りがございますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

7月2日 土

解説 ● 西村聡 (金沢大学人間社会研究域教授)

狂言 柑子 能村祐丞

能 加茂 広島 克栄

都の加茂神社に参詣した播磨国の神職の前に、里の乙女が手向けの水を汲みに現れる。神職に社の縁起などを語り、神となつての再来を約して消える。やがて末社の女神が現れて舞い、別雷神も勇壮に登場し神威を示す。

7月9日 土

解説 ● 佐々木香織 (石川工業高等専門学校准教授)

狂言 貰智 炭光太郎

能 船弁慶 島村明宏

源義経は、家来の弁慶らと西国を目指す都落ちの途次、後を慕ってきた静御前と涙の別れを果たす。やがて船出すると俄かに海が荒れ、平知盛の亡霊一団が襲い掛かってくるが、弁慶と共に追っ払い祈り伏せる。

7月16日 土

解説 ● 児玉信 (能楽評論家)

狂言 柿山伏 能村祐丞

能 井筒 松田若子

旅僧が在原寺を訪れると女が現れる。業平と井筒の女との恋物語を語り、自らをその女の霊だと明かして消える。やがて業平の形見を纏った女が再び現れて舞い、井戸に映した業平の面影を偲ぶうち、夜明けとともに消える。

7月23日 土

解説 ● 山内麻衣子 (金沢能楽美術館学芸員)

狂言 仏師 炭哲男

能 龍田 渡邊茂人

竜田川に差し掛かった旅僧の前に女が現れ、古歌を引いて川を渡るなど言う。やがて僧たちを竜田明神に案内し神木などを見せ、自ら神の化身であると明かして消える。夜、竜田明神の本体が現れ、舞を舞い、祝福する。

7月30日 土

解説 ● 佐々木香織 (石川工業高等専門学校准教授)

狂言 伊文字 炭光太郎

能 忠度 佐野弘宣

旅僧が、須磨の浦で薪を運ぶ老人に出会う。老人は平忠度ゆかりの桜の木の下で忠度の甲斐を頼んで消える。やがて忠度の霊が昔の姿で現れ、自らの歌が千載集に詠み人知らずにされたことへの執心を語り、合戦を再現して消える。

8月6日 土

解説 ● 西村聡 (金沢大学人間社会研究域教授)

狂言 蟹山伏 鍋島憲

能 三笑 高橋右任

廬山の庵に隠棲している慧遠禪師を陶淵明と陸修静が訪ねる。三人は飲酒し、舞いを舞うなど楽しく時を過ごす。やがて禪師は二人の帰りを見送りに出るが、禁足の虎深を渡ってしまったところで淵明に言われて、どつと笑う。

8月13日 土 特別公演

解説 ● 飯塚恵理人 (福山女学園大学教授)

仕舞 柏崎 大坪喜美雄

狂言 佐渡狐 炭哲男

能 小鍛冶白頭 宝生和英

霊夢を蒙った帝より三條の小鍛冶・宗近に御剣鍛造の勅命が下るが、折り悪く宗近は相槌不在の窮地。氏神に参拝すれば霊験もあらたかに明神の眷属の霊狐が現れ、見事相槌を務め、名刀小狐丸を無事に勅使に奉る。

8月20日 土

解説 ● 佐々木香織 (石川工業高等専門学校准教授)

狂言 膏薬煉 炭光太郎

能 巴 福岡聡子

近江の粟津。旅の僧は社の前で涙する女と出会う。女は粟津の祭神が義仲であると教え供養を勧めて消える。やがて武者姿の女が現れ、巴の霊であることを明かし、主・義仲の最期と奮戦の有様を語り、回向を願い去って行く。

8月27日 土

解説 ● 西村聡 (金沢大学人間社会研究域教授)

狂言 蝸牛 炭哲男

能 三山 敷克徳

大和の国。耳成山の麓にやってきた良忍上人の前に里の女が現れ、昔三山で起きた悲恋を語る。やがて悲恋の主人公、桂子・桜子の霊が現れ、争うがやがて回向を頼み消える。

加賀宝生

金沢能楽会

五代藩主綱紀の時代より加賀藩では、能を愛好する藩主が続き幕末まで能役者を手厚く保護しました。

その一方で、細工所の職人たちにも能楽の一部を兼芸させ、教養を高めさせると同時に能の人材として育成し、また領民たちにも推奨しました。

これにより、世に「加賀宝生」といわれるほどの能楽の盛んな土地がらとなりました。

一時、幕藩体制の崩壊によって加賀宝生も衰退しましたが、佐野吉之助師の登場により、一九〇一年金沢能楽会が設立され、以来一〇〇年以上の長きに渡り、連綿と伝統を受け継ぎ現在にいたっています。

現在、石川県立能楽堂において通算回数は一、一〇〇回以上に及んでいます。

「観能の夕べ」の終了時間は午後8時30分頃です。

詳細は、金沢能楽会又は県立能楽堂のホームページをご覧ください。

金沢能楽会のHPではその他魅力的な公演の情報も掲載しています。